

月・旬	11			12			1			2			3			4			5			6
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
生育	出芽期			有効分げつ期			無効分げつ期			茎立期			出穂期			登熟期						
主な作業	弾土・丸壌改良・資額材緑の明渠用 小麦播種時期 大麦播種時期 種子消毒・基肥・播種初期除草剤			麦踏み 麦踏み 追土（中肥入） ①れ期除草剤			麦踏み 麦踏み 追土（中肥入） ②れ期除草剤			麦踏み 追土（中肥入） 網斑病・黄斑病・赤かび病・赤かび病防除①②			畦溝さらえ・排水口の整備 雑草抜き 穂揃い期追肥（小麦のみ）			赤かび病防除② 赤かび病防除①			收穫			

1. 排水対策

麦づくりの基本は排水対策

- ①播種前に弾丸暗渠、ほ場周囲の額縁明渠施工。
- ②畝立て板装着による畝立て播種。
- ③播種後、土入れ作業の後は手作業で溝を切り、排水口につなぐ。
- ④雨の後は鍬を持って田んぼを見回り溝さらえ。水たまりを作らない。

2. 土壌改良資材（いずれかを施用しましょう）

- 麦（特に大麦）は酸性に弱いので『適正pH 6.0～6.5』を保つ。
土壌診断を実施しましょう。
- ・土づくりも兼ねて・・・アズミン苦土石灰 100～200kg/10a
 - ・後作が水稻の場合（酸度矯正 + ケイ酸補給）
ケイカル、ミネラルG など 160～200kg/10a
 - ・麦作のみ（酸度矯正）
苦土石灰、生石灰、消石灰 など 100kg/10a
- 土壌pHが適正値で酸度矯正の必要がない場合
・苦土の補給のため・・・スーパーマグ33-11 40kg/10a

3. 播種量および播種時期

品 種	播種適期	播 種 量 (10a当り)	備 考
テクゴイズミ	11月10～30日	6～7kg	遅播の場合は 播種量を増やす
はるか二条	11月15日～12月5日	6～7kg	

4. 種子消毒

対象病害虫	農薬名	処理方法
斑葉病・網斑病 なまぐさ黒穂病 裸黒穂病	トリフミン水和剤	種子10kgに対し、薬剤50gを袋等に入れてまんべんなく粉衣する。
鳥害防止 斑葉病・網斑病（大麦） なまぐさ黒穂病（小麦） ヤギシロトビムシ（小麦）	キヒゲンR-2フロアブル	種子10kgに対し、薬剤200mlを袋等に入れて塗抹処理する。または、ポリ容器等に入れてかき混ぜる。

※ヤギシロトビムシ対策（小麦）：上記種子消毒に加えて、アドマイヤー水和剤を種子10kgに薬剤15gを粉衣する。

5. 施肥基準

(10a当り)

品 種	基肥	追肥Ⅰ 1月中・下旬	追肥Ⅱ 2月下～3月上旬	穂揃い期追肥 4月中旬
テクゴイズミ	ベスト化成444 40kg	硫安 20kg	硫安 10kg 石灰窒素 15kg	硫安 10kg
		たんぱ君 30kg		
はるか二条	ベスト化成444 40kg	硫安 20kg	硫安 10kg	
		麦追肥名人 30kg		

※大豆後の基肥は施肥基準の半量程度とする。大豆の生育が良くなかった場合は大豆生育状況に応じて基肥を増やす。追肥は麦の生育状況に応じて施用する。

品種特性

(福岡県主要農作物品種特性表(R4. 6月)より)

品 種	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/㎡	収量 kg/10a	耐倒伏性	赤かび病
テクゴイズミ	4.12	6.1	88	8.5	537	562	やや強	やや強
はるか二条	4.7	5.22	79	8.5	654	572	強	中

※播種期は、テクゴイズミ11月20～25日前後、はるか二条は11月18日～12月3日。

1等Aランクの
高品質麦づくりを目指しましょう！

- ①種子更新100%
- ②排水対策の徹底
- ③適期播種、適正な播種量
- ④適正な肥培管理
- ⑤麦踏み、土入れの励行
- ⑥赤かび病防除の徹底
- ⑦適期収穫（早刈り、遅刈りをしない）
- ⑧生産履歴の記



6. 雑草防除基準

○播種前処理（播種前10日～14日の散布が効果的です。）（10a当り）

除草剤名	使用量	希釈水量
ラウンドアップマックスロード	200～500ml	50～100ℓ

《注意》
周辺の作物に飛散しないよう注意しましょう。

○播種後、生育中処理

- ◆除草効果を高めるため、播種前の砕土や整地を丁寧に行う。
- ◆雑草が生育すると効果が劣るので播種後早めに散布する。

(10a当り)

薬剤名	処理時期	使用量	希釈水量	備考
初期 リベレーター フロアブル	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～イネ科 雑草1葉期まで)	60～80ml	100ℓ	抵抗性スズメノテッポウ・広葉雑 草に効果が高い。 大麦、砂壤土等では葉害軽減 のため、散布量を70mlとする。
生育 ハーモニー75DF水和剤 (イネ科および広葉)	麦3葉期～ 節間伸長前	5～10g	50～100ℓ	スズメノテッポウは5葉期ま で
エコパートフロアブル	節間伸長開始前まで 広葉雑草2～4葉期 但し収穫45日前まで	50～100ml	100ℓ	ヤエムグラは2～6節期
中期 MCPソーダ塩	幼穂形成期 但し収穫45日前まで	200～300g	70～100ℓ	カラスノエンドウに効果が高 い
バサグラン液剤 (広葉のみ)	生育期 (小麦は収穫45日前まで 大麦は収穫90日前まで)	100～200ml	70～100ℓ	イネ科には効果がない。トゲミ ノキツネノボタンに効果が高い。 大麦は収穫90日前までの使用 なので散布は遅くとも2月末ま で

※ハーモニー75DF水和剤は野菜や豆類等に葉害を生じるので注意。使用後のタンク及び散布器具は、消石灰500倍液を10分間循環させた後、20分間放置し、排水後清水で洗浄する。

7. 赤かび病防除

薬剤、麦種により使用可能な回数、収穫前日数が異なるので注意

薬剤名	希釈 倍率	散布量 /10a	小麦		大麦	
			出穂後回数	収穫前日数	出穂後回数	収穫前日数
トップジンM水和剤	1,000倍	60～150ℓ	2回まで	14日前まで	1回まで	30日前まで
トップジンM粉剤DL	—	4kg	2回まで	14日前まで	1回まで	14日前まで
ミラビスフロアブル	1,500～ 2,000倍	60～150ℓ	2回まで	7日前まで	2回まで	14日前まで
ワークアップフロアブル	2,000～ 3,000倍	60～150ℓ	3回まで	7日前まで	3回まで	7日前まで
ワークアップ粉剤DL	—	3kg	3回まで	7日前まで	3回まで	7日前まで

※希釈倍率 1,000倍・・・水100ℓ(100g/ml) 2,000倍・・・水100ℓ(50g/ml)

※ 防除適期

小麦

1回目：開花始め～開花期

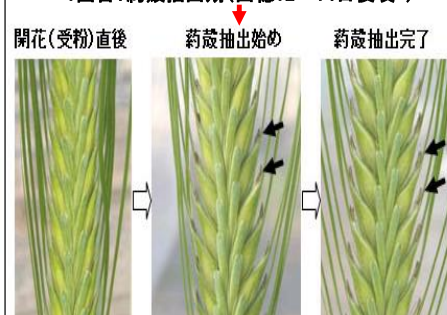
(出穂7～10日後頃*)



2回目：1回目の7～10日後

大麦

1回目：蒴殻抽出期（出穂12～14日後頃*）



2回目：1回目の7～10日後

*出穂後日数は目安であり、天候により前後するので注意。

8. 網斑病（大麦）、黄斑病（小麦）防除

昨年発生が見られた場合は防除を行ってください。

薬剤名	希釈 倍率	散布量 /10a	使用回数	収穫前日数	備考
ワークアップフロアブル	2,000倍	60～150ℓ	3回まで	7日前まで	茎立期の散布が効果的

※ワークアップフロアブルの希釈倍率は網斑病防除では2,000倍です。

9. 収穫

- 収穫前にカラスノエンドウ等、異物混入の原因となる雑草を抜き取る。
- 水分25～20%の間に収穫することが望ましい。
(特に大麦は水分25%以下で穂首が8割以上曲がり、穀粒が黄白色になって収穫開始。)

農薬・肥料は令和5年8月現在の登録に基づいて記載しています。